

委員会行政視察報告書

委員会名	空港等まちづくり対策特別委員会
出席委員等	中尾 広城 委員長、谷 展和 副委員長、古谷 公俊 委員、岡田 好子 委員、成田 政彦 委員、松本 雪美 委員、南 良徳 委員、木下 豊和 (議長) 【随行】藤原 秀紀 (議会事務局)
実施年月日	平成27年7月16日(木)～17日(金)
視察先	鹿児島県始良市(7/16) 鹿児島県薩摩川内市(7/17)
視察項目	鹿児島県始良市「まちづくりについて」 (定住促進、おもてなし観光、ふるさとサポートあいらファンクラブ) 鹿児島県薩摩川内市「まちづくりについて」 (定住促進、よかまち・きゃんせ倶楽部)
視察内容	
<p>●鹿児島県始良市(7/16)</p> <p>最初に、川原卓郎企画部長より「ゆくさ、おさいじゃったもした 始良市へ」と地元の言葉で、歓迎の挨拶を受ける。</p> <p>始良市は、平成22年3月23日に始良町、加治木町、蒲生町で、鹿児島県内で最後の合併により、県内43市町村になり、本年、合併後5周年をむかえ、人口75,352人(5月1日現在)のまちである。</p> <p>観光の取り組みでは、平成26年～平成30年までの5か年計画「始良市観光おもてなし計画」を策定し、4つの基本方針を掲げ実施している。特に、3つの重点プロジェクトのもと具体的施策を行っている。本計画は、「おもてなしの心あふれ、“本物”が光るまちづくり」の基本理念のもと、地域での連携をもち、3つ広域の会議に属し観光行政活動を行っている。</p> <p>また、観光PRでの取り組みは、鹿児島空港での観光パンフレットの配布、博多駅構内での広告、関西かごしまファンデーで始良市のPRを行い、始良市内へ観光客の呼び込みの活動をおこなっている。さらに、観光客を市内に呼び込むため、始良周遊観光バスの運行を行い、予約制で1,500円料金設定で、九州新幹線の2次アクセスとして鹿児島中央駅から「あいらびゅー号」を運行している。</p> <p>続いて、定住促進事業については、平成24年4月に「始良市移住定住促進条例ならびに規則」を施行し、中山間地域の活性化と均衡のある発展を図るため、豊かで活力に満ちた持続可能な地域づくりを推進している。</p> <p>また、3億円の始良基金(地域づくり推進基金)を原資として、移住定住促進のため、平成24年度～平成27年度までの間で、約2千6百万円の予算計上を行い、効果として33世帯、116人(うち小学生46人)実績となっている。</p> <p>今後は、補助金額、対象地域の見直しを行い、本事業とは異なる形での定住促進の検討を行っている。</p> <p>次に、「あいらファンクラブ事業」については、特に、始良市出身者やゆかりのある方などを対象に、年度毎の会員制で、事業実施が行われている。内容としては、年会費1万円、年2回特産品の郵送、広報紙でイベント情報などを発信している。</p> <p>また、平成27年度は、200人の会員目標で、歳入歳出予算2百万円予算の計上を行っている。対象としている年代は、本市出身者中高年齢層で、市外県外の会員と地元事業</p>	

者、市民とのつながりを推進し、会員に対し、情報発信（企業誘致や雇用、田舎暮らし、空き家情報、他）を行い、さらに会員の方から他の方に対し、始良市の自慢、魅力をPRしてもらうことを目的としている。

例えば、実績では、上名地区村づくり委員会で新米発送業務や始良特産品協会で特産品等発送業務が行われ、会員の方と地元地域の方との間で「ふるさと始良」の絆が広がっている。

質疑では、移住定住者の実績の内訳、「あいらファンクラブ事業」とふるさと納税との違いについては、との問いに、実績として、移住定住者33世帯の内訳は、県外4世帯、近隣市より29世帯となっており、鹿児島市へ30分で行けるJRの駅が2駅ある点や高速道路などの交通の便のよさにより、特に、公務員の方が、多く移住された。

また、ふるさと納税も別で実施しており、この「あいらファンクラブ事業」は、1万円で始良の「あじ」を買ってもらうものであり、毎月始良市の情報を発信し継続的に続けているものである。特に、会員として楽しむものとしての認識を持ってもらっているとのことでした。

定住促進の評価についてと市営住宅の建設、また観光協会の機能強化ならびに宿泊施設の誘致については検討されているのかとの問いに、移住定住において、現在ある小学校を維持する目的で実施され、33世帯は一定の成果があった。現在、市営住宅は建設中で、これも、小学校の維持のため、子育て世代対象として、本年8月には県外、市外の方を中心に、30戸募集を行う予定である。観光協会の活動として、96名の会員で、広報等3部会を設置し、部会ごとに活動をして頂いているとのことでした。また、宿泊施設誘致については、本市でも課題であり、ビジネスホテル、旅館が6つあり、宿泊者の通年的利用がない状況であり、ホテル誘致条例も設置しているが、いまだ新規建設が予定されていないとのことでした。

移住定住促進事業は、合併の条件で実施したのか、また、成果はあったのかとの問いに、合併の条件では特になく、小学校を維持するため、3年で見直すという条件で実施し、小学生の移住定住者もあり一定の成果はあったとのことでした。

住宅リフォーム実施事業が上限百万円で実施されているが、金額変更も考えて、多くの人が利用できるようにする予定がないのかとの問いに、具体的な内容は決まっていないが、金額の見直しを踏まえ検討しているとのことでした。

道の駅の箇所数ならびに市の観光に携わる職員体制について、また、「あいらファンクラブ」の商品原価についてはどうかとの問いに、現在、道の駅は、市内にはなく、平成30年を目標に始良市物産館（道の駅）の構想計画がある。また、観光の市職員体制については、8名の体制である。ファンクラブの商品仕入れ単価については、約8割で商品を仕入れ運用しているとのことでした。

鹿児島中央駅からの「あいらびゅー号」運行内容と定住促進で補助対象年齢を50歳以下と決めた理由は、との問いに、バスは、鹿児島中央駅を午前9時30分に出発し市内の駅からの乗車をした後、最終午後5時に鹿児島中央駅というルートとなっており、概ね乗車された所に帰りは下車され、途中下車される方はほとんどない状況である。料金については、当初は、500円であったが、1,500円に上げ、試験的に1,000円のチケット（平成27年3月まで）を帰りに渡し、再度、始良市に来てもらえるよう施策を実施した。また、対象年齢は、子育て世代を考え50歳以下と設定したとのことでした。

●鹿児島県薩摩川内市（7/17）

最初に、企画経済川添委員長より歓迎の挨拶を受ける。

薩摩川内市の概要説明では、平成16年に1市4町4村が合併し、約10年が経過し、面積682.94K㎡、人口約9万6千人のまちである。しかしながら、人口が、毎年、約700人（自然増減が年▲300人、転入転出▲400人）減少し、人口推計予測45年後、5万4千人となる中で、転入戦略を進める必要があり、今後、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、地域に定住推進するだけでなく、手に職を持った人の雇用促進、地域での起業を取り組まれる方の転入等を促す必要がある。地域が等しくではなく、伸びるところを伸ばす差別化施策が必要であるかは、「総合戦略」の策定の中で、これからの議論となる。

移住定住促進のため、平成18年12月1日から定住支援センター「薩摩川内よかまち・きゃんせ倶楽部」を設置し、14名の職員で運営している。

倶楽部会員登録者1,485名の方に対し、薩摩川内市の関心を高め、交流人口の拡大を目的として、倶楽部通信により、市のイベントや移住情報について情報提供を行っている。

また、定住移住を考えている方に対し、市の「よかとこい」を実感してもらう目的で、農業や漁業体験等を通して市民との交流を図ることにより、定住を促し、平成19年度～平成23年度までで、78名の事業参加者で内6名の移住実績の成果があった。

また、PRでは、大阪、東京、名古屋の都市部において、職員が出向き市のPRに努めている。平成25年～平成27年度の事業として、薩摩川内市の転入者等へ市の魅力をいち早く実感してもらうため、無料優待券付「おじゃるパス」を一人一冊、配布している。補助制度としては、転入者に対し、住宅の新築または購入、リフォームに対し、補助事業の充実を図るとともに、通勤者のために新幹線定期購入の補助をするなど定住促進の施策をすすめている。

質疑では、住みたい田舎の上位である市の特徴とゴールド集落のネーミングに至った経緯と、今後、人口減少を食い止める方策はあるのかとの問いに、ゴールド集落の名称は、限界集落というよりは、地域には色々な宝があるということなど、色々なご意見をいただき、ネーミングされた。また、これから先、人口を増やすことは、大へん難しく、人口減少を食い止めるため「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定の中で考える必要がある。特に、「若い方々が興味をもち働ける雇用の場」と「住みやすい環境」をつくることと、一方、「高齢者の方が安心して暮らせる」まちづくりが大切であるとのことでした。

新幹線通勤補助の実績内容と傾向は、との問いに、鹿児島市からの転入者が多く、会社の通勤の上に、転入者の方に対し補助する形となっているとのことでした。

「おじゃるパス」のできる事となった経過と体験住宅について内容は、との問いに、女子大の学生と若手職員の意見交換会の中で、「おじゃるパス」ができることとなった。また、体験住宅は1住宅当たり一泊あたり2,000円で運営されており、1人での利用、家族での利用が実績としてあるとのことでした。

薩摩川内市に「来たい、住みたいまちづくり」についての考えと、また、転入者へ補助金を渡すのではなく固定資産税、市民税の減免など考えていないのかとの問いに、定住促進の中で検討過程には、ででくることであるが、税を減免することにより交付税が減らされるという点もあり、また、交付税を減らさず還元する方策について具体的な結論を出しておらず、また、減免施策も実施していないとのことでした。

「来たい住みたいまちづくり」とは、「暮らしやすいまち」であり、これは、若者の雇用があるまちであり、薩摩川内市の中に、雇用の場を生み出す必要がある。それぞれの地域で、個人の方が起業するような風土、地域の中でお金が回る、元気のあるまちなどが考えられ、総合戦略の策定後、この先5年間の中で仕組み、環境づくりを行っていききたいとのことでした。

■総 括

時間的配分の厳しい日程の中、視察が実施されましたが、始良市ならびに薩摩川内市の担当職員により詳細にわたり説明を受けました。その説明に対して、各委員から活発な質疑が行われ、大変充実した視察であったと考えており、十分に所期の目的を達成することができたと考えております。

今回の視察により得た内容については、今後の市政に反映させるとともに、市の発展につなげていきたいと考えております。

上記のとおり報告いたします。なお、資料等については、別添のとおりです。

平成27年8月12日

空港等まちづくり対策特別委員会

委員長 中尾 広城

鹿児島県始良市視察



鹿児島県始良市川原卓郎企画部長より挨拶



会議風景



鹿児島県始良市にて

鹿児島県薩摩川内市視察



中尾 広城 委員長より挨拶



会議風景



鹿児島県薩摩川内市にて